

令和3年度

事業計画書

令和3年3月

学校法人 藤村学園

東京女子体育大学

東京女子体育短期大学

目 次

令和3年度事業計画	1
I 法人の運営	2
II 大学・短期大学の運営	5
III 事業の内容	6
1 重点事業の概要	6
2 所管別事業計画	
○教育改革推進関係事業	15
○事務局関係事業	15
○教務関係事業	16
○教職関係事業	17
○学生支援関係事業	18
○キャリア支援・就職対策関係事業	19
○学生募集・入学試験関係事業	21
○学生・教職員の健康管理関係事業	22
○教育・研究支援関係事業	22
○地域との交流関係事業	23
○図書館の運営関係事業	24
○施設の整備	25
○キャンパス整備計画	25
IV 予算概要	27

別紙 1 学園組織図

別紙 2 令和 3 年度行事予定表

令和3年度 事業計画

18歳人口の推計は、令和3年度の114万人からさらに減り続け、2030年にはおよそ10万人少ない104万人まで減少するとされています。

大学を取り巻く環境がますます厳しさを増していくなか、大学における私立の割合は77%、短期大学においては95%を占めており、日本の教育に大きく貢献しています。

本学においては、藤村トヨの建学の精神である「心身ともに健全で、質素で誠実、礼儀正しい女子体育指導者の育成」を基調として、体育・スポーツの知の獲得と深い洞察力を身につけ、運動文化伝承の担い手として、凛とした次世代のリーダーとなる人材を育成することを理念としています。

このような理念の下、広く教養的知識を授けるとともに深く専門分野の学術技芸を教授研究し、人間性豊かで創造性に富み地域及び国際社会に貢献できる人材を養成することによって、人間社会の進展に寄与することを目標としています。

財政面においては、経営基盤の安定確保と財政収支の均衡を図り、教育・研究活動の継続を主眼においた財務計画を推進するとともに、学生及び保護者の信頼を高める教育内容の充実に一層努め、建学の精神に基づき、より魅力ある大学を目指すための改革を進めていきます。

令和3年度は、急速に18歳人口が減少するなかで、学生数の確保に向け、教職員が一体となって継続的に教育内容の充実に取り組むとともに、社会のニーズに柔軟に対応するべく新たな教育を展開していきます。そして2022年には創立120周年を迎えることを踏まえ、女子体育大学・女子体育短期大学としてあらゆる限りの可能性を追求し、本書に掲げる重点事業を軸とした令和3年度の事業を展開していきます。

I 法人の運営

1 理事会等の開催

- (1) 常任理事会 (理事 05 人 週 1 回程度随時開催)
- (2) 理事会 (理事 09 人 毎月 1 回開催)
- (3) 評議員会 (評議員 19 人 年 3 回程度開催)

2 学園組織図 別紙 1 のとおり

3 役員・評議員・教職員

- (1) 役員
 - ① 理事 9 人 ② 監事 2 人
- (2) 評議員 19 人
- (3) 教職員数
 - ① 教育職員 58 人 ② 事務職員 56 人

【教職員構成】(令和 3 年 4 月 1 日予定) (単位: 人)

教育職員		事務職員				非常勤講師
学長	1	局長	1	寮生指導員	2	42
教授	31	次長	2	嘱託員		
准教授	19	課長・主幹	8	教務補佐員	9	
講師	7	課長代理	3			
助教		係長	7			
		主査	5	計 ②	56	
計 ①	58	課員	19	総計①+②	114	

4 設置する学校・学部・学科等

理事長 雨宮 忠

- (1) 東京女子体育大学
体育学部・体育学科
学長 金子 一秀
- (2) 東京女子体育短期大学
保健体育学科
児童教育学科
学長 金子 一秀

【第三者評価機関別認証評価】

大学	平成 20 年 3 月 19 日認証	財団法人 日本高等教育評価機構
	平成 27 年 3 月 10 日認証	公益財団法人日本高等教育評価機構
短期大学	平成 19 年 3 月 22 日認証	財団法人 短期大学基準協会
	平成 26 年 3 月 13 日認証	一般財団法人 短期大学基準協会
	令和 3 年 3 月 12 日認証	一般財団法人 短期大学基準協会

5 学部・学科の入学定員

【令和3年度学部学科の入学定員及び収容定員】

(単位：人)

		大 学 体育学部 体育学科	短 期 大 学			総 計
			保健体育 学科	児童教育 学科	短大計	
入学 定員	入 学 定 員	340	40	100	140	480
	3 年次編入学定員	40				40
収 容 定 員		1,440	90	210	300	1,740

6 教育研究上の基本となる組織

大学等	学部	学科	コース
東京女子体育大学	体育学部	体育学科	コーチング学 体育学 スポーツ健康学
東京女子体育短期大学	保健体育学科		
	児童教育学科		幼保 幼小

7 授業料等学納金

(単位：円)

	項 目	大 学 体育学科	短 期 大 学	
			保健体育学科	児童教育学科
入学時 納入	入 学 金	300,000	230,000	230,000
	授 業 料(前期)	370,000	340,000	360,000
	施設設備費(前期)	150,000	135,000	135,000
	実験実習料	30,000	25,000	30,000
	計	850,000	730,000	755,000
後期 納入	授 業 料(後期)	370,000	340,000	360,000
	施設設備費(後期)	150,000	135,000	135,000
	実験実習料	30,000	25,000	30,000
	計	550,000	500,000	525,000
合 計 (年額)		1,400,000	1,230,000	1,280,000

8 教育施設

- (1) 校 地 等 52,523 m² (学生寮 2,729 m²及び借地 998 m²を除く)
- (2) 校 舎 等 33,860 m² (学生寮 5,111 m²を除く)
- (3) 使用目的別校舎等
 - 1 号館 管理棟
 - 2 号館 講義室、マルチメディアルーム ゼミ室、研究室、女子体育研究所、
教職ラーニングステーション
 - 3 号館 藤村総合教育センター、地域交流センター、110周年記念藤村学園資料室

- 4号館 講義室、武道場、メディアホール、ピアノレッスン室、多目的演習室、美術室、造形室、ゼミ室、研究室、会議室、キャリア支援部、広報部、健康管理センター、リハビリテーション実習室、屋上多目的運動スペース
- 5号館 第一体育館
- 6号館 食堂・学生ホール、合宿室、保育演習室
- 7号館 第二体育館、第三体育館
- 8号館 合宿室
- 9号館 第五体育館、プール
- 10号館 第六体育館、図書館、多目的室
- 11号館 第七体育館
- 12号館 事務室、会議室
- クラブハウス
- 藤村スポーツセンター

(※学生寮(ふじ寮) 東京都国立市青柳)

II 大学・短期大学の運営

1 教授会の開催

- (1) 定例教授会（月1回、原則として第一水曜日開催）
- (2) 臨時教授会（年7回程度開催）
- (3) 部館所長会（必要に応じて随時開催）

2 部館所長

（令和3年4月1日）

部・館・室長名	氏名
教務部長	小林 福太郎 教授
学生部長	今丸 好一郎 教授
キャリア支援部長	渡辺 博之 教授
教職センター所長	吉村 潔 教授
入試部長	早瀬 健介 教授
広報部長	平田 利矢子 教授
図書館長	田中 洋一 教授
女子体育研究所長	若山 章信 教授
健康管理センター所長	高柳 佐土美 教授
地域交流センター所長	柳田 憲一 教授

※ 任期は、令和3年4月1日から令和5年3月31日〔2年間〕

3 令和3年度 行事予定表

別紙2のとおり

4 学生数

【大学及び短期大学の在学生数（令和3年4月1日）】

（単位：人）

学年	大学 体育学部 体育学科	短期大学			総計
		保健体育学科	児童教育学科	計	
1	324	29	44	73	397
2	335	27	65	92	427
3	351	/	/	/	351
4	405				405
計	1415	56	109	165	1580

Ⅲ 事業の内容

本年度の事業計画は、重点事業として、「中長期計画」「教育内容等の改善充実」「研究活動の促進」「学生支援の改善充実」「キャリア支援の充実」「広報活動の充実」「地域交流事業の充実」「教育環境の整備充実」の8事業を掲げ、大学教育の質の向上を図るための計画実施に必要な経費を措置していきます。

1 重点事業の概要

(1) 中長期計画

① 中期計画の実施

東京 2020 オリンピック・パラリンピックや、2022 年に創立 120 周年を迎えることを踏まえ、中期計画（財務計画含む）に則して、事業を推進する。[基本方針]

○短期大学の改革

保健体育学科と児童教育学科の発展のために改革を推進する。

児童教育学科において、平成 30 年度に開設した保育士養成課程（幼保コース）を修了し、保育士資格を取得した卒業生の活躍状況を把握し、大学編入とあわせて広報活動の強化を図る。

保健体育学科・児童教育学科のカリキュラム改定において、カリキュラムの検証と体系化の検討を行う。さらに、これまで検討してきた他学科履修・科目等履修生の改善・充実を図る。また、令和 3 年度より実施する入学定員の削減に伴い、定員学生を確保することで、定員の適正化を企図すると共に、より質の高い教育を展開する。

○大学の改革

認証評価受審を踏まえ、カリキュラムマップ、カリキュラムチェックリスト、シラバス等の検証を進め、教育の質保証に繋げる。

本学で培ってきた保健体育教員養成の教育力をさらに発展させ、時代の要請に応じた幅広い年代層に向けてスポーツ教育を展開できるよう改革を行う。

○教育改革を計画的に推進する

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催予定に伴い、令和 2 年度に続き令和 3 年度も 100 分授業 14 週とし、授業期間と単位修得時間の確保、全学的な教育課程（カリキュラム）の見直しをより良い方向に導き、従来の授業方法に加えた多様な授業展開、主体的な学び、自発的・計画的な学びに取り組む。

また、藤村トヨの建学の精神に基づく女子体育指導者の養成及びアスリートの育成を図る。

○学生数の増加を図る

教育内容・方法の改善充実、キャリア支援の強化、クラブ活動の強化を図り、本学の強みを活かした戦略的広報活動を展開し、本学への受験者数・入学者数の増加を図るとともに、きめ細かな学生への対応により中途退学者数の減少を図る。加えて、オンラインを用いた教育活動及び学生募集活動の展開を図る。

○教育職員採用試験合格者及び採用者の増加を図る

教員採用試験で試される実践的指導力や課題対応力を高めるために、教職ラーニング

ステーションを活用し、教員採用受験講座や企画講座の充実を図り、就職・資格取得に対する支援を行い、採用試験合格者、採用者を増やす対策を推進する。

○経費の削減を図る

事業の必要性及び費用の妥当性を検証するほか、一般的経費については削減目標を設定し、継続して削減する。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるこれまでの支出の適正化を図る。

○120周年記念事業の推進

2022年の創立120周年に向け、記念事業の準備を進める。また、120周年記念誌については、記念誌編纂委員会を中心として、作成方針に基づき編集作業を進め、刊行を目指す。

②長期構想計画の策定

中期計画の策定・実施に伴い、今後の将来計画等基本戦略の具体策を検討し、今後の長期構想計画の策定につなげていく。

③寄付金募集

恒常的な寄付金制度「教育振興寄付金」に加え、創立120周年記念事業として「藤村学園複合体育館寄付金」の募金活動を行う。

④学園資料の整理・保存

収集した学園資料の整理・保存を行う。

⑤キャンパス整備計画

将来的な5・6・7・8号館の建替えを視野に入れ、藤村スポーツセンターを建設する。
(令和3年8月末完成予定)

(2)教育内容等の改善充実

①本学の今後のあり方を踏まえた教育の質保証

大学・短期大学の教育の質を高め、学生の有意義な生活を保障するため教育・研究に関わる様々な改革・改善に取り組む。

○学生意識調査の実施

入学理由・学生生活・課外活動・学修・キャリア支援・悩み・健康に関することについて「学生調査アンケート」を実施し、その結果を分析する。分析時には学生データと紐付け問題を抽出する。それらの分析結果を全学的に活かし、改善・充実を図る。

○IRの推進

I. 各種アンケートの集計結果を基に、教学部門と協力して本学の課題解決に向け改善策を探る。その際、企画調査室は改善策を導き出すための分析データの提供を主として行い、具体的な改善策は担当部署が主体となって考え、実行するものとする。また学内の集積データ等を活用し、学習成果の可視化を具現化させるための取り組み等に努める。

II. 教務課、学生課をはじめとした教学部門が管理するデータや調査結果を集積・分析(経年比較含む)する。またそうした集積データを可視化し、本学独自で行う自己点検・評価活動を学生にも共有すべく作成した「一より良い学園づくりのためにー東女体大 CHECK!!」を通して、学内外への公表を目指す。

②カリキュラムの検証と体系化の検討

○令和4年度入学生対象カリキュラムの改善を図る

大学体育学部と短期大学保健体育学科は平成27年度カリキュラム、短期大学児童教育学科は令和2年度改定カリキュラムにおいて問題点を改善する。

○令和3年度単位の実質化に向けて改善の取組

単位制度の趣旨を踏まえ、記載内容の改善及び適正を図る体制を整備する。

○学習成果の評価方法と公表に向けた改善の取り組み

③FD活動の充実

本学の教育・研究の改善・充実を図るため組織的な取り組みを行う。

FD委員会を中心にFD研修の実施、学生による授業評価の活用等により、教員の教育意識や指導技術を高め、授業内容の改善・充実に資する。またSD委員会と連携し、学内教職員全体で職員力向上を図るべく、研修を計画・実行する。

(3)研究活動の促進

①女子体育研究所における研究の充実

研究機能の充実に努め、研究関連情報の収集・提供及び補助金申請支援等研究活動の充実を図る。

健康・体力に関する研究の一環としての体力テストを、学生主動での測定実習として行う。その結果を分析評価し、学年・学科・種目別平均値等の体力プロフィールを作成し、継続資料として蓄積する。女子体育研究所運営委員を中心に、共同研究の充実を図る。

②研究活動の活性化

研究者情報（業績）の一元化及び教員の事務的業務の効率化に寄与する研究者情報管理システムを引き続き活用し、研究活動を実質的に支援する。

研究活動を広く発表する場として紀要を発行し、他大学等の図書館へ配布するほか、学術機関リポジトリに掲載して、さらに発表の場を広げる。なお、紀要には研究論文の他に、教員の当該年の研究活動報告を掲載する。

個人研究費に加え、教員が研究内容の充実を図り、その研究成果を当大学や学会等の紀要や研究誌に発表することを奨励するため、「奨励個人研究費」を引続き設ける。

研究者向け研修会を開催(或いは参加補助)し、研究支援を行う。

③紀要(1-28号)の電子的公開

CiNii(国立情報学研究所運営)で過去の紀要掲載論文がインターネット上で検索・閲覧できなくなったため、紀要のバックナンバーを東京女子体育大学学術機関リポジトリに登録し、電子的公開をする。大学が研究機関として学術情報(論文)をインターネットで公開することは重要な使命であり、特に戦後直後の短大創成期の論文は、日本の体育指導者教育の歴史として、他大学にない価値を有していると考えられる。(29号以降は学術機関リポジトリで公開)

(4) 学生支援の改善充実

① 運動部活動の強化・充実

本学の専門性を支える運動部活動を強化し、学内の活性化及び社会的知名度を高めることに貢献するため、スポーツ系クラブから大学強化指定クラブを選抜し計画的な強化を図る。

大学強化指定クラブの選抜及び強化策については、大学強化指定クラブ委員会にスポーツに関する専門委員会としての機能を持たせるとともに、スポーツの専門的知見を必要とする事案の審議も依頼する。

② 学生の生活支援

入学直後のフレッシュウィーク及び後期オリエンテーションでの集中指導や学生相談箱の設置、クラス・ゼミ担任及びクラブ部長等の学生相談やオフィスアワー等を通じ、学生生活全般の支援を行う。

③ 奨学金の給付

○ 藤村学園育英奨学金

本学の建学の精神に基づき、学習・研究・諸活動に真摯に取り組み、優れた資質、素質を有し着実に実績を積んでいる将来有為な学生のうち、修学を継続するために経済的援助を必要とする者に対し学資を支援し、もって本学が期待する優れた人材の育成に資する。

*当該年度スポーツ特別奨学生及びスカラシップ生である者を除く。

○ 藤村トヨ奨励金

学業成績その他の活動を含め、建学の精神に則り模範となる学生を表彰し、奨学金を授与する。学業を奨励・支援する。

○ スポーツ奨学金

スポーツ特別奨学生以外で入学後、本学のクラブ活動でその専門技能を磨き、優秀な競技成績を収めたスポーツ系クラブ選手を表彰すると共に奨学金を授与し、競技活動を奨励・支援する。

*報奨金授与された者及びスカラシップ生、藤村育英奨学生の奨学金の取扱いは別とする。

○ 藤村学園スポーツ特別奨学金

本学の建学の精神及び教育理念に沿って、本学での活躍が期待される競技成績の優秀な入学生・在学生を支援することを目的とし、インターハイ・国民体育大会・国際大会等において、優秀な成績を収め、将来が期待できる選手を支援する。

○ 学校法人藤村学園スカラシップ制度（給付型奨学金入学制度）

建学の精神「心身ともに健全で、質素で誠実、礼儀正しい女子体育指導者の育成」のもと、優秀な指導者を育成するために、成績優秀者、将来有為な学生を入学させることを目的とする。

スカラシップ生として選抜された入学者には、学業、生活態度において他の学生の模範となること、卒業後のビジョンを明確に持ち勉学に励むことを期待する。

④教師力養成講座

○観察実習

教員志望者に対して、将来、教員として職責を全うしていくために必要な資質と能力の基盤を形成していくことが主たる目的とし、いわゆる教員採用試験対策に終始せず、教員としての力量を高める基礎づくりに主眼を置いて事業を展開する。

⑤教員採用試験対策講座

○教採試験対策講座

教員採用試験合格者を増やす対策を推進するため、一般教養・教職教養・専門教養の各対策講座を開講する。

2次試験対策としては、実務家教員に論作文・面接指導・模擬授業対策の個別対応と集団面接・討論の対策などを依頼し、教員採用試験に向けた有効な学生の支援を実施する。

○教養対策講座

小学校全科及び中学・高等学校保健体育の教員を目指す学生に対して、教師として必要な資質と能力を形成、実践的な指導力を養成するため講座を開講する。

また、教育職員採用試験に向けた基礎学力の向上を図り、教員を目指す学生への有効な支援を実施する。

(5)キャリア支援の充実

①キャリア形成支援

○キャリアデザイン授業と就職活動支援

必修科目「キャリアデザイン」は学生のキャリア形成を自分自身で考え、明確にしていくための授業で、これからのキャリア形成に必要な力（社会人基礎力）を育成する内容である。

○インターンシップ講座と就職活動支援

企業が採用において重要視しているインターンシップを本学も積極的に参加するよう支援しインターンシップ講座を実施している。インターンシップでは、就業体験をすることにより、学生の就職意識の啓発・深化を図り主体的な職業選択能力を養成する。（平成29年度から単位化）

②就職活動支援

○就職・資格ガイダンスの実施

学生の意識と基礎的就職力を養成し、レベルアップを図るため、就職対策講座等を実施する。就職活動に向けて基礎的な講座を行いつつ、講座は基礎・直前と2期に分け、就職の理解を深めていく。対象は「大学3年短大1年生全員」とする。

学生の希望する就職（内定獲得）を実現するため、キャリアカウンセリングを設置し、就職相談・職業紹介の支援を行う。

卒業学年の進路状況の把握、集計、記録、分析を行い、よりよい支援体制の

検討や 支援プログラムの展開を行う。

就職推進懇談会や企業への訪問を行い、学生の就職実現のための情報収集、意見交換及び幼稚園・体育施設・企業関係者への積極的な働きかけを行う。

公務員講座について、現在全 6 回にて実施しているが、その後、スクールに通い学習する学生、過去問を利用し独学で学習する学生がおり、講座の内容改善が必要と感じている。ある程度の内容を実施することで、採用試験まで学習を継続できることとなり、また、最終合格(採用)する学生が増えるの見込める。

また、費用についても回数同様増えるため、学生より「受講料」を徴収する。差額は大学負担。

幼稚園保育園懇談会、体育施設企業関係懇談会について、実施方法を改善し新型コロナウイルス感染症に対応しつつ実施できるように工夫する。

③資格取得支援

○各種資格取得支援

資格取得の助言・指導を行い、学生のキャリアアップを図る。

健康運動指導士、健康運動実践指導者等、資格取得のための対策講座を開講する。

秘書技能検定講座を開講し、ビジネスマナー・知識を向上させる

(検定試験学内実施)

○社会体育施設実習

社会体育施設について理解を深め、社会体育指導者としての資質を養い、社会体育施設への就職の機会を広める。

(6)広報活動の充実

①広報が担う大学存在価値の訴求

大学の「存在価値」を全国的に浸透させる活動は学生募集の基盤であり、その継続的な取り組みが「少子高齢化社会」における喫緊の課題である。「本学の業績や本学関係者の活躍を社会に知らせ、それを広めることで社会的な存在価値を高め、優秀な人材を獲得する。」という目的の下、さらなる確立を目指して情報発信力を継続的に強化し、本学のブランディング戦略を立案実施する。

その確固たる大学ブランドの下に積極的な学生募集活動を展開実施する。

「建学の精神」に則った本学の教育イメージを伝えるために、心に訴えるメッセージとして「一生ものの、姿勢をつくる。」を使用し効果的な広報を行うと共に「TWCP E」や「東女体大」の大学ロゴ及びマスケットキャラクターも効果的に使用する。

現在、大学ブランドを全国に訴求する手段として、広報ツールの充実と活用できるあらゆるメディアの訴求力を最大限に利用しているが、さらに強化し広報活動の継続的な充実と幅広い展開は、令和 3 年度以降の中期的構想の目標達成には不可欠である。

②戦略的学生募集広報

戦略的學生募集は、「本学の初期接触者を増やし、出願まで結びつける。」という基本コンセプトに則り広報活動を行っている。その実現のために、本学の本質的な魅力を発掘し、情報誌、情報サイト、多様なメディアを利用して広く伝えるとともに大学案内やホームページの更なる充実とオープンキャンパスの質的改善を行い、学生募集における積極的な広報活動を行っていく。その一環としてスマートフォンを利用した LINE 公式アカウントなどの SNS を活用し、高校生等に大学からのメッセージを配信する。また、競技スポーツ系クラブの協力を得て、高校生との合同練習会でキャンパスグッズと一緒に大学案内等の資料を配布し、より身近な大学として認知してもらう。また、全国の高等学校の卒業生教員との人的ネットワークの展開のために本学同窓会の協力の下、大学と卒業生教員との繋がりを密にし、卒業生教員への情報提供を強化する。

③進路アドバイザーによる学生募集広報の発展

訪問実績を踏まえ、学生募集活動をさらに充実させて継続的に実施する。

特に関東エリアでは、前年の訪問校を継続しつつ、新規開拓の広報活動を展開する。

また、早い時期に多くの高校へ大学案内等を持参し説明する。

(7)地域交流事業の充実

①公開講座

本学の研究・教育の成果を地域に開放し、生涯学習の場を提供する公開講座を充実し、本学と地域社会との交流を図る。

対象を幼児から社会人までの5区分で実施する。

幼児講座・小学生講座は、総合的な動きづくりとスポーツの楽しさに重点を置き発達発育期に応じた講座の充実を図る。また、文化や科学のこころを育てる講座も開講する。中学・高校生講座は本学の教育の魅力をアピールする機会でもあるため引き続き実施する。共通講座は、小学生から成人を対象とし、健康づくりや生涯スポーツを年齢に関係なく一緒に楽しめるよう充実を図る。

実施方法は、新型コロナウイルス感染症の社会状況を鑑みながら、感染対策、安全管理を徹底し担当講師の協力の下、実施する。

②定期レッスン

近隣の子ども達のスポーツ振興と地域交流の促進を図るとともに、本学学生の指導法の実践学習に資することを目的とし、定期的に有料講座を開講する。

③ジュニア・ユースクラブ

近隣の子ども達のスポーツ振興と地域交流の促進を図るとともに、本学学生の指導法の実践学習に資することを目的とし、会員制のジュニア・ユースクラブを実施する。

3種目（新体操、ヒップホップ、サッカー）すべてにおいて、昨今の社会状況を鑑みながら、運営について検討を行い、感染対策、安全管理を徹底し実施する。さらに地域に根付いたクラブを目指し、会員数の安定と活動内容の更なる充実を図る。なお、新体操クラブにおいては、大学独自の地域貢献事業の取り組みとして、より専門的に技術力を養い、競技としてのスポーツを親しむ場の提供を継続。昨今の社会状況を鑑みなが

ら、特別講師招聘事業を例年から継続して開講し、最先端の指導を受ける場を提供する。
また、国内競技会の参加、強化合宿の実施については、感染拡大防止等の状況に合わせて検討しながら行う。

(8) 教育環境の整備充実

教育環境の整備充実として、大学構内の施設・設備について次のような施策を実施し、安全・安心に係る事項の推進や快適空間の確保など教育環境の整備充実を図っていく。

① 各建物耐用年数向上化促進改修工事

1号館から12号館(2号館及び4号館を除く)の各建物の劣化度診断に基づき、緊急性を踏まえて耐用年数の向上に必要な改修工事を実施する。

② 校内電気設備更新修繕工事

受変電設備が一般的な耐用年数(約30年)を経過している。外観上の不備はないが、経年劣化による機能低下となる前に緊急性を踏まえて新規設備へと取替更新を実施していく。

③ 第1体育館改修工事<新規>

第1体育館の床は、割れやささくれ等が発生し一部床面が沈下しているため、藤村スポーツセンター完成後に床面改修工事を実施する。

④ 10号館改修工事 <新規>

藤村スポーツセンター完成後に、3階会議室及びトレーニングルームを改修し有効活用を図る。

⑤ ソフトボール場改修工事 <新規>

人口芝が消耗しているため、競技に支障をきたさないよう人工芝を張り替え安全を確保する。

⑥ 9号館改修工事 <新規>

9号館の外壁が経年劣化により老朽化している。数年前に西側外壁が落下しており、安全対策のため改修工事を実施する。

⑦ 10号館受変電設備入替工事 <新規>

10号館のガス空調機は、老朽化のため電機空調機に更新しているが、電気容量が不足するため変圧器を入れ替える。

⑧ 陸上競技場改修工事 <新規>

公認継続に伴う改修工事を実施する。

⑨ 教育工学機器入替 <新規>

マルチメディアルームの機器が、保守期限(5年)を超過するため入れ替える。

⑩ 情報機器の更新

図書館サーバー機器更新

平成28年8月購入のサーバーが、令和3年8月をもって5年経過する。図書館サーバーは、資料の登録をはじめ、蔵書検索、貸出など図書館業務全体に使用しているため、不具合が生じる前に計画的な更新を行う必要がある。

⑪ 図書館運営機器の更新

磁気付加機器の更新

平成 16 年度購入の磁気付加機器が 17 年を経過する。図書館で購入した資料には、退館管理システムで貸出手続きが完了していない資料を検知するため、資料に貼付のタトルテープに磁気を付加し、貸出時に磁気を消去する。磁気付加機器は資料に貼付されたタグに磁気を不可、消去するために使用する。

⑫ 資料保存 <新規>

古書・和綴じ本・取り扱いに注意が必要な貴重書などを保管するため、補修や装備(専用の封筒や箱に入れる)等を行う。令和 3 年度は資料点数約 1 万点のうち、5,000 点の装備を行う。

2 所管別事業

○教育改革推進関係事業【総務課・企画調査室】

(1) 学生による授業評価の実施（企画）

教員の教育意識や指導技術を高め、学生の視点に立った授業内容の改善に資するため、大学（体育学部体育学科）、短期大学（保健体育学科、児童教育学科）において、全科目、全クラスを対象に学生へのアンケート調査を実施する。

実施時期 前期授業 6月下旬～7月 後期授業 11月下旬～2月中旬
学外・集中授業 8月～9月、12月～3月上旬

科目数 約370科目 授業数 約700クラス 履修者数 延べ4万4千人

自己点検評価の一環として実施しており、調査結果を各担当教員へ通知する。各教員が調査結果を分析し、改善策等を「授業改善報告書」としてまとめ、学生のみならず教職員の閲覧に供す。また、授業評価の分析を教員間で行い教育の質を向上させる。

(2) 自己点検評価報告（企画）

教育実践の一層の改善・充実を図るため、教育・研究活動の現状について自己点検評価を行う。令和3年度は、令和2年度の点検を行い、「令和元年・2年度点検・評価年報」として冊子を作成し、ホームページにも公開する。

(3) 学園研修の推進（総務）

教職員全員を対象として、管理運営や教育・研究支援等を含めた資質の向上を図るため組織的に取り組んで研修活動を推進する。

(4) F D活動の推進（総務）

授業内容の改善・充実を図るための組織的な活動を推進する。F D委員会を中心にF D研修の実施、学生による授業評価の実施とその活用策等を検討する。

(5) ティーチングポートフォリオの作成（企画）

年度ごとのシラバス、授業評価結果等を教員ごとに管理・保管し、継続的な教育改善に資する。

○事務局関係事業【総務課・経理課・企画調査室・募金担当】

(1) 2020 東京オリンピック・パラリンピック プロジェクト（総務）

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、2014(平成26年度)に立ち上げたプロジェクト本部及び専門委員会を中心に本学の資源を活かした方策を検討する。学園としては、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮したうえで事前キャンプ等の受入を検討し、在学生のボランティア活動をサポートする。

(2) 寄付金募集（経理・募金担当）

教育研究に要する経費、奨学金支給を含む多様な学生生活動への支援経費や校舎その他附属設備の取得・改修費に係る恒常的な「教育振興寄付金」及び創立120周年記念事業の一環である体育館建設に係る「複合体育館寄付金」のための募金活動を行う。

(3) 事務職員研修（SD研修）（総務）

事務職員の能力向上のため、SD委員会を中心に学内研修会の開催等、組織的に対応する。

- (4)「学園報」の発行（総務）
 学園の基本情報を学内・学外に広く提供・周知するため「学園報」を定期的に発行する。
- (5)国際競技会等に対する報奨金（総務）
 在学生が高次の国際競技会に日本代表として出場した時に、大会成績に応じて報奨金を授与する。
- (6)本学の今後の在り方を踏まえた教育の質の保証（企画）
 アセスメント・プランを見据え、本学のアセスメント・ポリシーを令和3年3月策定した。アセスメント・ポリシーは本学の3つのポリシーに基づき策定された「学習成果を評価するための評価方針」を基に定めた。評価方法については、評価指標をアセスメントマップを用いて図式化し、学習成果の点検・評価を行う。
- ① 学習成果測定アンケート（卒業時アンケート含む）
 全在学生を対象に、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた卒業までに身につける能力を学習成果とし、その学習成果を測るための調査・分析を行う。
- ② 学生調査アンケート
 全在学生を対象に、入学理由・学生生活・学修などの質問項目から、本学における学修実態の把握を行う。結果をIRの取り組みとして定性的・定量的に分析し、教育の質の向上を目指す。
- (7)120周年記念事業の推進（総務）
 2022年の創立120周年に向け、記念事業の準備を進め、記念式典・祝賀会、記念グッズ等について、具体的な検討をし、準備を進める。
 また、120周年記念誌については、記念誌編纂委員会を中心として、作成方針に基づき編集作業を進め、刊行を目指す。
- (8)国立市・立川市との包括連携事業（総務）
 年1回協議会を開催し、年度報告および計画を発表し、意見交換等を行う。
- (9)新型コロナウイルス感染症対応について（総務）
 学生及び学園関係者の安全を考慮し、マスクの着用、検温及び消毒の徹底を図るとともに、危機対策本部の主導により、状況に応じた授業実施形態、大学行事、学生クラブ活動等の実施方法の検証を行い、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めていく。

○教務関係事業【教務部 教務課】

- (1)教育の質保証に関する充実
- ア) 当該年度のすべての開講科目のシラバスについて、シラバス部会による記載内容のチェックを実施し、カリキュラムレベル(DPとの関連)、授業レベル(授業計画・手法、評価方法等)の改善を図る。
- イ) GPA制度の活用、学修成果の把握及び学修支援の充実を図る。
- ウ) 履修系統図またはナンバリングの整備及びカリキュラムマップの充実を図る。
- (2)履修指導の充実及び学習支援
- ア) 学部、学科のカリキュラムを基に、学生一人ひとりの能力・適性、興味・関心に応えられる多様な教育メニューを整え、充実した学習ができるよう履修指導等を充実し、支援していく。
- イ) 履修登録、成績管理、卒業認定単位の確認、休講・補講・教室変更等の情報など、学生情報に関する教学システム「UNIVERSAL PASSPORT」の活用の充実を図り、学生及び教職員に対して

教学事務の利便性の向上を図っていく。

り) 遠隔授業にも対応できるよう学生用ノートパソコンの貸出を行い、学修支援の充実を図る。

(3) 学外実習・演習

前年度中止となった夏季学外実習も含め 6 科目と冬季学外実習 3 科目において、感染対策を十分に行い実施する。

(4) 創作オペレッタ発表会

短期大学児童教育学科 2 年生の参加により、カリキュラム授業の中で創作劇の脚本、演出、音楽、出演など学生自身で行う創作オペレッタ発表会を開催する。小学校教諭免許取得希望者の選択履修を開始する。

(5) 導入教育の実施

ア) 「藤村トヨの教育」(講義・演習 1 単位) 「国語基礎講座」(講義 2 単位)

新入学生対象/大学・短期大学

イ) フレッシュマンセミナー

保健体育学科 1 年対象/水泳 (含海浜実習)

児童教育学科 1 年対象/野外活動演習

(6) キャリア教育の実施

「キャリアデザイン」(講義・演習 1 単位) 新入学生対象/大学・短期大学

(7) 履修形態の多様化

ア) 科目等履修生の受け入れ (大学・短期大学)

イ) 他学科履修制度 (短期大学児童教育学科・10 単位以内)

ウ) コース制

短期大学児童教育学科

幼小コース(幼稚園教諭・小学校教諭)/幼保コース(幼稚園教諭・保育士)

(8) 授業運営の充実・効率化

ア) スチューデントアシスタントの活用

イ) 出席管理システムの活用

(9) 聴覚に障がいのある学生への情報保障支援

ア) ノートテーカーの配置

(10) 高大連携の実施

高大連携協定に基づき、希望する高校生に大学の授業に参加する特別科目等履修生や体験学習を実施し、大学教員による高校への出張講義も実施する。高大連携協定 3 校

○教職関係事業【教職センター 教職課】

(1) 教育実習の実施

大学体育学部体育学科 4 年 317 人

短期大学保健体育学科 2 年 11 人

短期大学児童教育学科 2 年 (小学校) 40 人 (科目等履修生を含む)

短期大学児童教育学科 2 年 (幼稚園Ⅳ) 46 人 (科目等履修生を含む)

(2) 介護等体験の実施

大学体育学部体育学科 2 年・3 年・4 年 624 人

短期大学保健体育学科 1 年 20 人

短期大学児童教育学科 1 年 20 人

(3) 保育実習の実施

短期大学児童教育学科 2 年（保育実習Ⅱ・Ⅲ） 45 人

短期大学児童教育学科 1 年（保育実習Ⅰ） 70 人

(4) 教師力養成講座

【参観実習】

教員志望者に対して、将来、教員として職責を全うしていくために必要な資質と能力の基盤を形成していくことを目標に、公立小学校等において参観実習を行い、教員としての力量を高める基礎づくりを行う。

【教養対策講座】

小学校全科及び中学・高等学校保健体育の教員を目指す学生に対して、教師として必要な資質と能力を形成、実践的な指導力を養成するため講座を開講する。また、教育職員採用試験に向けた基礎学力の向上を図り、教員を目指す学生への有効な支援を実施する。

【教採試験対策講座】

教員採用試験合格者を増やす対策を推進するため、一般教養・教職教養・専門教養の各対策講座を開講、2次試験対策としては、論作文・面接指導・模擬授業対策の個別対応と集団面接・討論の対策など、教員採用試験に向けた有効な学生の支援を実施する。

○ 学生支援関係事業【学生部 学生課】

(1) フレッシュウィークの実施

新入生が大学での学修の魅力を肌で感じ、新鮮な印象と期待感を持って学園生活をスタートできるよう、授業ガイダンス、キャリア支援、クラブ活動、学友会活動など学園生活に必要な事項のオリエンテーションを年度当初に集中的に行う。

(2) クラブ活動の充実

ア) 国際試合等海外遠征支援

イ) クラブ活動支援

運営指導必要経費（学外指導者連絡費等補助費の支給） 対象クラブ：38クラブ

ウ) 特別学外指導者の配置 対象クラブ：6クラブ

エ) 学外指導者の配置 対象クラブ：16クラブ

オ) 大学強化指定クラブ 対象クラブ：5クラブ

(3) 藤園祭（学園祭）の実施

様々なイベント等を学友会藤園祭実行委員会が企画・運営し、11月3日（文化の日）を中心とした2日間で行う。

(4) 本学独自の奨学生制度（奨学金の給付等）：大学・短大共通

ア) 藤村学園育英奨学生

予算額：1,100万円

イ) スポーツ奨学生

予算額：400万円

ウ) 藤村トヨ奨励金

予算額： 90 万円

エ) 国際競技会等に対する激励金(激励金、報奨金の支給)

予算額： 250 万円

カ) スポーツ特別奨学生の運用

A ランク 入学初年度費用相当額(入学金、授業料、施設設備費、実験実習費)及び次年度の授業料(前後期)相当額を給付する。なお、次年度の免除については別に定める基準により評価し決定する。

B ランク 入学初年度費用相当額(入学金、施設設備費)を給付する。

C ランク 入学初年度費用相当額(入学金)を給付する。

キ) スカラシップ制度(新入生)の運用

建学の精神に基づき、本学の教育理念を理解し、一般選抜、共通テスト利用選抜において優秀な成績を修めた学生に対し、奨学金として入学初年度(授業料半額程度)を給付し、入学後の学修意欲を高めることを目的とする。

(5) 日本学生支援機構奨学金(令和2年12月1日現在の実績)

給付奨学金(授業料減免) 139人

第一種奨学金(無利子) 322人

第二種奨学金(有利子) 523人 ※参考:うち114人が両方併用

(6) 学生相談

ア) 学生相談箱の設置

イ) 担当教員による相談、臨床心理士等によるカウンセリング

ウ) 24時間電話健康サービス(学生本人と保護者が相談できる)

(7) オフィスアワーの実施

学生のより豊かな学習活動を支援するため、全教員が曜日と時間を設定し、学生の相談等に応じ、きめ細かい支援をする。

(8) 学生寮「ふじ寮」の運営

寮生数(想定) 新入生 144人、残寮生 108人 合計 252人

○キャリア支援・就職対策関係事業【キャリア支援部 キャリア支援課】

(1) ガイダンス・イベント等

ア) 就職オリエンテーション

学年別にテーマを変え、全学年対象に実施し、就職活動への意識を早めに高めていく。

- ・フレッシュウィーク
- ・後期オリエンテーション

イ) 就職ガイダンス

大学3年・短大1年を対象に、就職活動のポイント・インターンシップの重要性等を説明する。特にインターンシップは先に開講するインターンシップ講座への誘導を図る。

- ・就職スタートアップガイダンス

ウ) 資格取得ガイダンス

就職活動に必要な「資格」をテーマ(内容)別にガイダンスを実施する。

特に学内にて講座実施する資格や公務員については強化し実施していく。

- ・資格取得ガイダンス(健康運動指導士・健康運動実践指導者・障がいスポーツ等)

- ・学内（秘書検定、SPI）、学外（簿記、MOS、TOEIC 等）講座ガイダンス
- ・公務員ガイダンス

エ) 学内企業説明会

業界・業種ごと、実施時期や内容を変え、学生が参加しやすい説明会を実施する。

令和2年度より実施した、夏実施・10月実施と同様、コンパクトな内容で回数を増やして実施する。

(2) キャリア支援

ア) 印刷物の作成

就職ガイド『「なりたい！」の実現を目指して』大学3年、短期大学1年へ配付する。

イ) キャリアカウンセリング

キャリアコンサルタント及びハローワーク職員を配置し、進路相談、応募書類添削指導、面接指導・各種アドバイスを行う。また、卒業生も含めた就職相談に応じる。

ウ) キャリア支援関係情報の収集・提供

就職先拡充を図るため、企業アンケート等を基に本学学生に対する企業ニーズを把握し進路指導に活かす。また、インターンシップ先企業の新規契約も強化する。

(3) 就職活動支援

ア) 就職対策講座

大学・短期大学それぞれの特色に合った対策指導を実施する。

特に、公務員・SPI対策は回数・受講料等の改善を行い、学生のニーズに合わせて実施する。

- ・就職対策講座（基礎）（前期 週1回 全3回）
- ・就職対策講座（業界研究）（前期 週1回 全3回）
- ・公務員対策講座（前後期 週1～3回 全36回）
基本講座（30回）・面接対策（3回）・論文対策（1回）・模擬試験（2回）
- ・SPI対策講座（後期週1回 全6回）
- ・就職対策講座（直前）（後期 週1回 全3回）

イ) インターンシップ（1単位）（前期週1・2回 全6回・後期週1回・実習15時間）

授業内容改善を行うとともに、受入れ先企業数を増やす。

ウ) 就職活動学生報告会（後期 一般企業2回、幼稚園・保育所・施設3回）

実施回数を増やし、就職活動に向けた情報提供を強化する。

(4) 各種資格取得支援

ア) 印刷物の作成

『資格取得の手引き 2021年』大学・短期大学 全学年へ配付する。

イ) 実習・講座・講習会

各講座・講習会の受講者数増となるよう改善する。また、各スクールの通信講座及び通学講座（学外講座）を利用し、資格取得できるよう支援を行う。

- ・社会体育施設実習
- ・健康運動指導士認定試験対策講座
- ・健康運動実践指導者認定試験対策講座
- ・共通科目I集中講座
- ・日本赤十字社救急法講習会

- ・日本赤十字社水上安全法講習会
- ・秘書検定（2級）対策講座

(5) 対外活動

対外的な活動によって情報を収集し、新たな就職先・インターンシップ先を開拓する。また、後援会支部会等に出席し、就職に関する情報を提供するとともに、保護者の理解と協力を得る。

ア) 就職推進懇談会 等

- ・体育施設関係、一般企業関係、幼稚園、保育所、施設関係 懇談会

イ) 訪問活動

- ・体育施設、一般企業、幼稚園、保育所、施設等
- ・後援会支部懇談会

○学生募集・入学試験関係事業【入試課・広報課】

(1) 入学試験の実施

- ア) 総合型選抜Ⅰ期～Ⅲ期（一般、特別選抜）
- イ) 学校推薦型選抜（公募、指定校、スポーツ）
- ウ) 一般選抜Ⅰ期・Ⅱ期
- エ) 共通テスト利用選抜Ⅰ期・Ⅱ期
- オ) 大学3年次編入学選抜Ⅰ期・Ⅱ期

(2) 学生募集活動

- ア) オープンキャンパス（6回）の実施
- イ) 高校訪問
- ウ) 進学説明会への参加（延べ80回）
- エ) スポーツ推薦の学生募集
- オ) 出前授業
- カ) 高大合同練習会への協賛

(3) 広報活動

- ア) 高校生・学校関係者等対象「大学案内」の発行（A4版84ページ 19,000部）
- イ) 広報誌の発行

「ヘッドライン」	年1回 3,500部（保護者・在学生・高校向け）
「ラブスポ」	年1回 15,000部（学外・保護者・ 在学生・高校生向け）
「短大パンフレット」	年1回 8,000部（高校生・高校向け）

- ウ) ホームページによる広報
大学案内、入試案内、オープンキャンパス開催案内、資料請求等
- エ) インターネット（パソコン・スマートフォン）を利用した広報
- オ) 受験雑誌、新聞、フリーペーパー、競技大会等プログラムなどへの広告による広報
- カ) 指定校ポスターの制作・掲示・配付
- キ) 交通広告による広報

○学生・教職員の健康管理関係事業【健康管理センター】

医療法に基づく認可を受けた「診療所」として、治療処置の初期対応や迅速な措置を行うことにより学生・教職員の健康管理の充実を図る。

学生の健康診断に基づき学生一人ひとりの健康を医師が専門的に管理し、健康の保持増進に努める。

また、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ等感染症は、学生をはじめ学園に関わる全ての者に注意喚起をするとともに、予防対策と発症時の対応を適宜・適切に行う。

- (1) 定期健康診断と事後措置（学生）
- (2) 定期健康診断と事後措置（教職員）
- (3) 医事相談（内科、整形外科、心療内科 他全般）
- (4) 精神衛生相談（公認心理師・臨床心理士による心理相談）
- (5) 応急処置
- (6) 産業医保健指導
- (7) 体組成測定・血圧測定・アルコールパッチテスト
- (8) 健康診断証明書発行
- (9) 特別検診（入試等）
- (10) 野外活動実習帯同
- (11) イベント救護対応

○教育・研究支援関係事業【女子体育研究所】

女子の体育・スポーツ・レクリエーション等とこれに関連する研究調査を行い、その向上、発展に資することを目的とし、その成果を教職員・学生のみならず広く社会へ公開し、社会の発展に寄与する。

- (1) 教員の個人研究・共同研究に対する補助

個人研究（本学教員） 共同研究（新規 2 件予定）

- (2) 研究フォーラムの開催

研究フォーラムを開催し、女子体育研究所共同研究、教員の個人研究及び共同研究の成果を本学教員と学生に発表する。

- (3) 「紀要」、「所報」の発行

「紀要」は教員の研究成果を論文として発表する機会を設けるため毎年発行し、全国の大学や国立国会図書館・関係出版社等にも配布するとともに東京女子体育大学・東京女子体育短期大学学術機関リポジトリで発表する（第 57 号）。

「所報」は研究所の研究事業及び共同研究を研究報告として発表する場として毎年発行し、全国の大学等に配布すると同時に東京女子体育大学・東京女子体育短期大学学術機関リポジトリで発表する（第 16 号）。

- (4) 研究者情報の開示（教員の研究業績の開示）

- ① 本学の研究資源として、教員の持っている知的資源、資質・能力及び本学独自の研究指導成果を広く公表する機会とする。
- ② 教員の研究領域や分野を相互に理解し、研究活動を充実させ、研究集団としての価値を高める機会とする。

③ ホームページ（教員情報）、research map(教員名又は大学名で検索)および J-GLOBAL (research map の教員から検索) において、本学教員の研究業績の開示を行っている。

(5) 学生に対する体力テストの実施と測定結果の活用

(被検者は大学・短期大学各 1・2 年生および競技系クラブ所属 3・4 年生、検者は大学 3・4 年生)

文部科学省へデータ提供する。

○地域との交流関係事業【地域交流センター】

地域社会からの要請に応じて大学の教員や学生を派遣し、地域の教育、文化、スポーツ等の活動を支援するとともに、大学主催事業である公開講座、定期レッスン、ジュニア・ユースクラブの運営・実施により、地域の発展に寄与する。

(1) 公開講座の開催

公開講座（26 講座）は、地域の方が自由に参加することのできる講座を無料と有料（実費徴収）で提供する。

幼児講座	4 回開講	各 20～30 人
小学生講座	8 回開講	各 20～50 人
中学・高校生講座	6 回開講	各 30～50 人
共通講座（小学生～成人）	7 回開催	各 20～50 人
社会人講座	1 回開講	20 人

(2) 定期レッスン

定期レッスンは、専門的内容の定期講座を有料で提供する。

新体操 7 回開講 各 50 人（小学生～高校生対象）

(3) ジュニア・ユースクラブの開催

ジュニア・ユースクラブは、会員制、通年で継続的に事業運営する。

① 新体操クラブ

一般コース	キッズ	3 クラス	毎週 1 回	各 15 人
	ジュニア	7 クラス	毎週 1 回	各 20 人
	ユース	1 クラス	毎週 1 回	15 人
育成コース		4 クラス	毎週 1～2 回	各 8～15 人
選手コース		3 クラス	毎週 4～5 回	各 8～15 人

会員の競技力強化・育成を図るため、外国人特別講師の招聘を行い、国内競技会および強化合宿東京都新体操ジュニアの育成・強化練習会にも積極的に参加する。

② ヒップホップクラブ

ヒップホップ	1 クラス	毎週 1 回	15 人
--------	-------	--------	------

③ サッカークラブ

サッカー	2 クラス	毎週 1 回	各 20 人
------	-------	--------	--------

(4) ボランティア講座の開催（学生対象／5 テーマ 13 講座／講義・演習）

学生にボランティアの意義、理論を学ばせ、演習を通してボランティア実践の方法を学ばせる。

(5) ボランティア活動

教育、文化、スポーツ等に関する地域社会からの要請に基づき、教員、学生を派遣し、社会貢献の一環とする。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会ボランティアへ参加する学生の支援をする。

○図書館の運営関係事業【図書館】

附属図書館は大学における教育・研究活動を支える重要な基盤機関であり、また総合的な教養の場でもある。この目的を達成するために学生の教育・学修、教員の研究活動を支援し、図書をはじめとする雑誌、新聞、映像、電子資料、学園史資料の収集・提供・保存を行う。

(1) 図書等資料の収集・整理・保存（蔵書冊数予定 182,000 冊）

図書受入予定	約 4,000 冊
雑誌所蔵予定	約 800 種
新聞所蔵予定	約 14 種
映像資料所蔵予定	約 100 タイトル
データベース予定	約 7 種

(2) 図書貸出予定冊数 年間 約 4,000 冊

(3) レファレンス・サービス

(4) 学外機関との相互協力

図書館間の資料の相互補完

国立情報学研究所の目録所在サービスへの図書・雑誌所蔵登録

(5) 開館時間の延長

学生の学修時間の確保をめざす為、閉館を平日の通常 17 時を 19 時まで、土曜日の通常 13 時を 14 時まで遅らせ、開館時間を延長し授業終了後にも図書館を利用できるようにする。試験期間、卒業研究提出期間には平日は 20 時、土曜日は 17 時まで開館時間を延長する。

(6) 広報活動

図書館広報誌 「リーヴル」 年 2 回発行

ホームページ（図書館ページ）の更新

(7) 令和 3 年度図書館行事予定

ライブラリー・ツアー	調査・研究に役立てるために、図書館の資料の場所を知り、検索方法や利用法を身に付けさせる。	春秋 2 回 予定
読み聞かせの会 「絵本から広がる子育て」 *地域交流センター共催	絵本を入口に子どもと一緒に楽しむ。	年 1 回
図書館は楽しい ー子どもと一緒にー 絵本の読み聞かせ 紙芝居・クラフトワーク他	学園祭にあわせ図書館を地域に開放して、児童教育学科の学生と子ども達との交流を図り、地域社会への貢献を行うことにより、図書館の有効な利用法の一つとする。	11 月 藤園祭期間 年間 1 回

卒業研究発表会 写真展示会	卒業研究発表会で発表している学生達の様子を写真展示し、学生に修学意欲を起こさせる。	1月中旬
------------------	---	------

(8) 資料保存

取り扱いに注意が必要な古書・和綴じ本・貴重書などの補修や装備を行う。

○施設の整備【管財課】

(1) 校内電気設備更新修繕工事

受変電設備が一般的な耐用年数（約 30 年）を経過しており、外観上の不備はないが経年劣化による機能低下となる前に、緊急性を踏まえて新規設備へ取替更新を実施する。

今年度は 3 年計画の 3 年目で、1・6・8 号館の電気設備更新修繕工事を実施する。

(2) 各建物耐用年数向上化促進改修工事

1 号館から 12 号館（2 号館及び 4 号館を除く）の各建物の劣化度診断に基づき、建築及び設備関係の不具合箇所の緊急性を踏まえて耐用年数の向上に必要な改修工事を実施する。

(3) 第 1 体育館改修工事

体育館の床に、割れやささくれ等が発生し一部床面が沈下しているため、藤村スポーツセンター複完成後に床面（フローリング）を全面改修するとともに、床面沈下部分を補修する。

(4) 10 号館改修工事

藤村スポーツセンター完成後に、3 階会議室及びトレーニングルームの天井、壁、床を改修し有効活用を図る。

(5) 9 号館改修工事

外壁が経年劣化により老朽化しており、安全対策のため改修工事を実施する。

(6) 10 号館受変電設備入替工事

ガス空調機の老朽化に伴い、電機空調機に更新しているが電気容量が不足するため、変圧器（キュービクル）を入れ替える。

(7) ソフトボール場改修工事

人工芝が消耗しているため、競技に支障をきたさないよう人工芝を張り替え安全を確保する。

(8) 陸上競技場改修工事

公認継続に伴う走路・助走路、施設（インフィールド芝生等）の改修工事を実施する。

(9) 教育工学機器入替

マルチメディアルームのサーバ、AV 機器、クライアント機器が、保守期限（5 年）を超過するため入れ替える。

○キャンパス整備計画【管財課】

(1) 藤村スポーツセンター建設

将来的な 5・6・7・8 号館の建替えを視野に入れ、第 7 体育館北側用地に移設したテニスコート跡地に藤村スポーツセンターを建設する。

複合体育館藤村スポーツセンターは、新体操競技が主用途の体育館（Aアリーナ）、バレーボールやバスケットボールが主用途の体育館（Bアリーナ）、クラブ活動と各クラブの基

礎練習として使用できる多目的ルーム及びトレーニングルームを設置する。
現在、令和3年8月末の完成予定で建設している。

IV 予算概要

1 令和3年度予算編成の概要

令和3年度予算は、予算編成方針に基づき部署別の事業計画及び予算に係るヒアリングを実施し、理事査定、予算委員会を経て編成しました。令和3年2月17日(水)の理事会において事前審議の後、2月24日(水)の評議員会へ諮問し、3月10日(水)の理事会で承認されました。

本学園を取り巻く環境は、18歳人口の減少やスポーツ及び健康に関する学部・学科の相次ぐ開設により体育系大学の入学者獲得競争が激化してきたことによる入学者の減少、また女性の高学歴化に伴う4年制大学への志向が強まってきたこととの関係で、短期大学への入学者減少など、財務基盤の安定を確保するには厳しい状況と言えます。

こうした厳しい状況の中で本学園は、中期財務計画に基づく学費改定、保育士養成課程の設置や学生募集に努め、入学定員変更による定員充足率向上など収入の安定化に向けて取り組んでおり、諸施策を確実に実行して教育・研究の水準の維持向上を目指しています。

収入については、学生総数が前年度比96名の減少が見込まれ、収入全体の73%を占める学納金収入が前年度実績を下回るため大変厳しい予算編成となっています。

支出については、教育研究経費及び管理経費に遠隔授業対応関係費、藤村スポーツセンターに係る保守管理費及び減価償却費、1年延長された東京オリンピック・パラリンピック関係費、学生支援として経済支援、学業やスポーツ優秀者の支援、スカラシップ及び国際大会参加者への激励や報奨等の奨学金費(第3号基本金の増額を行い財源を確保)、国の授業料等減免による修学支援費(補助金対象)、学生相談充実のため24時間電話相談サービスを予算に計上しています。また、大学認証評価受審に係る経費を予算措置しています。研究面では、学長奨励研究制度を新たに設置し、学長奨励研究費を予算計上しました。

施設設備関係は、キャンパス計画に基づき藤村スポーツセンター建設、施設設備改修計画に基づきソフトボール場改修工事、陸上競技場改修工事、教育工学設備更新、緊急性を要する施設の改修工事及び設備の更新、また新型コロナウイルスに端を発した遠隔授業に係る費用を予算計上し、教育環境の改善・充実に配慮しています。

2 学生数

- 入学者数は編入を含め434名、前年度比で8名の減少を見込む。
- 5月1日の在籍者数は1,570名、前年度比で96名の減少を見込む。

(1) 入学者数(令和3年度入学者数は、総合型選抜Ⅱ期までの実績を基に算出した推計値)

(単位:人)

区分	入学定員	令和3年度見込	令和2年度(5/1)	増△減	備考(3年度充足率)
大学 体育学部	340	340	339	1	100%
大学 3年編入	40	18	15	3	45%
短大 保健体育学科	40	30	24	6	75%
短大 児童教育学科	100	46	64	△18	46%
計	520	434	442	△8	83%

(2) 在籍者数(退学・除籍・9月卒業 33人、留年者21人)

(単位:人)

区分	収容定員	令和3年度見込	令和2年度(5/1)	増△減	備考(3年度充足率)
大学 体育学部	1,440	1,401	1,458	△57	97%
短大 保健体育学科	90	56	68	△12	62%
短大 児童教育学科	210	113	140	△27	53%
計	1,740	1,570	1,666	△96	90%

資金収支予算書

令和 3年 4月 1日 から
令和 4年 3月31日 まで

(単位：千円)

収 入 の 部			
科 目	令和3年度予算額	令和2年度予算額	増減
学生生徒等納付金収入	1,838,728	1,877,197	△ 38,469
手数料収入	24,000	24,000	0
寄付金収入	10,000	10,000	0
補助金収入	254,475	223,380	31,095
国庫補助金収入	(254,325)	(223,230)	(31,095)
地方公共団体補助金収入	(150)	(150)	(0)
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	151,000	145,500	5,500
受取利息・配当金収入	127,269	122,542	4,727
雑収入	114,511	81,279	33,232
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	526,990	501,275	25,715
その他の収入	3,650,380	4,250,642	△ 600,262
資金収入調整勘定	△ 611,436	△ 556,670	△ 54,766
期末未収入金	(△ 110,161)	(△ 76,930)	(△ 33,231)
前期末前受金	(△ 501,275)	(△ 479,740)	(△ 21,535)
前年度繰越支払資金	2,045,301	2,636,041	△ 590,740
収 入 の 部 合 計	8,131,218	9,315,186	△ 1,183,968

(単位：千円)

支 出 の 部			
科 目	令和3年度予算額	令和2年度予算額	増減
人件費支出	1,265,720	1,236,040	29,680
教育研究経費支出	633,530	627,987	5,543
管理経費支出	203,457	186,584	16,873
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	2,507,080	2,288,150	218,930
設備関係支出	125,098	86,050	39,048
資産運用支出	1,696,181	2,833,000	△ 1,136,819
その他の支出	36,168	37,497	△ 1,329
[予備費]	[10,000]	[10,000]	[0]
資金支出調整勘定	△ 35,521	△ 35,423	△ 98
期末未払金	(△ 26,200)	(△ 27,000)	(800)
前期末前払金	(△ 9,321)	(△ 8,423)	(△ 898)
翌年度繰越支払資金	1,689,505	2,045,301	△ 355,796
支 出 の 部 合 計	8,131,218	9,315,186	△ 1,183,968

事業活動収支予算書

令和 3年 4月 1日 から
令和 4年 3月31日 まで

(単位：千円)

教育活動収入の部	科目	令和3年度予算	令和2年度予算	増減
	学生生徒等納付金	1,838,728	1,877,197	△ 38,469
手数料	24,000	24,000	0	
寄付金	5,000	5,000	0	
經常費等補助金	254,475	212,915	41,560	
国庫補助金	(254,325)	(212,765)	(41,560)	
地方公共団体補助金	(150)	(150)	(0)	
付随事業収入	150,000	143,500	6,500	
雑収入	114,511	81,279	33,232	
教育活動収入 計	2,386,714	2,343,891	42,823	
教育活動支出の部	科目	令和3年度予算	令和2年度予算	増減
	人件費	1,259,190	1,240,908	18,282
教育研究経費	998,073	945,561	52,512	
減価償却額	(364,543)	(317,574)	(46,969)	
管理経費	294,280	279,318	14,962	
減価償却額	(90,823)	(92,734)	(△ 1,911)	
徴収不能額等	3,000	3,000	0	
教育活動支出 計	2,554,543	2,468,787	85,756	
教育活動収支差額		△ 167,829	△ 124,896	△ 42,933

(単位：千円)

教育活動外収入の部	科目	令和3年度予算	令和2年度予算	増減
	受取利息・配当金	126,402	122,542	3,860
その他の教育活動外収入	1,000	2,000	△ 1,000	
教育活動外収入 計	127,402	124,542	2,860	
教育活動外支出の部	科目	令和3年度予算	令和2年度予算	増減
	借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外支出 計	0	0	0	
教育活動外収支差額		127,402	124,542	2,860
經常収支差額		△ 40,427	△ 354	△ 40,073

(単位：千円)

特別収入の部	科目	令和3年度予算	令和2年度予算	増減
	資産売却差額	60,000	3,660	56,340
その他の特別収入	5,100	15,565	△ 10,465	
特別収入 計	65,100	19,225	45,875	
特別支出の部	科目	令和3年度予算	令和2年度予算	増減
	資産処分差額	2,000	4,000	△ 2,000
その他の特別支出	0	0	0	
特別支出 計	2,000	4,000	△ 2,000	
特別収支差額		63,100	15,225	47,875

[予備費] [10,000] [10,000] [0]

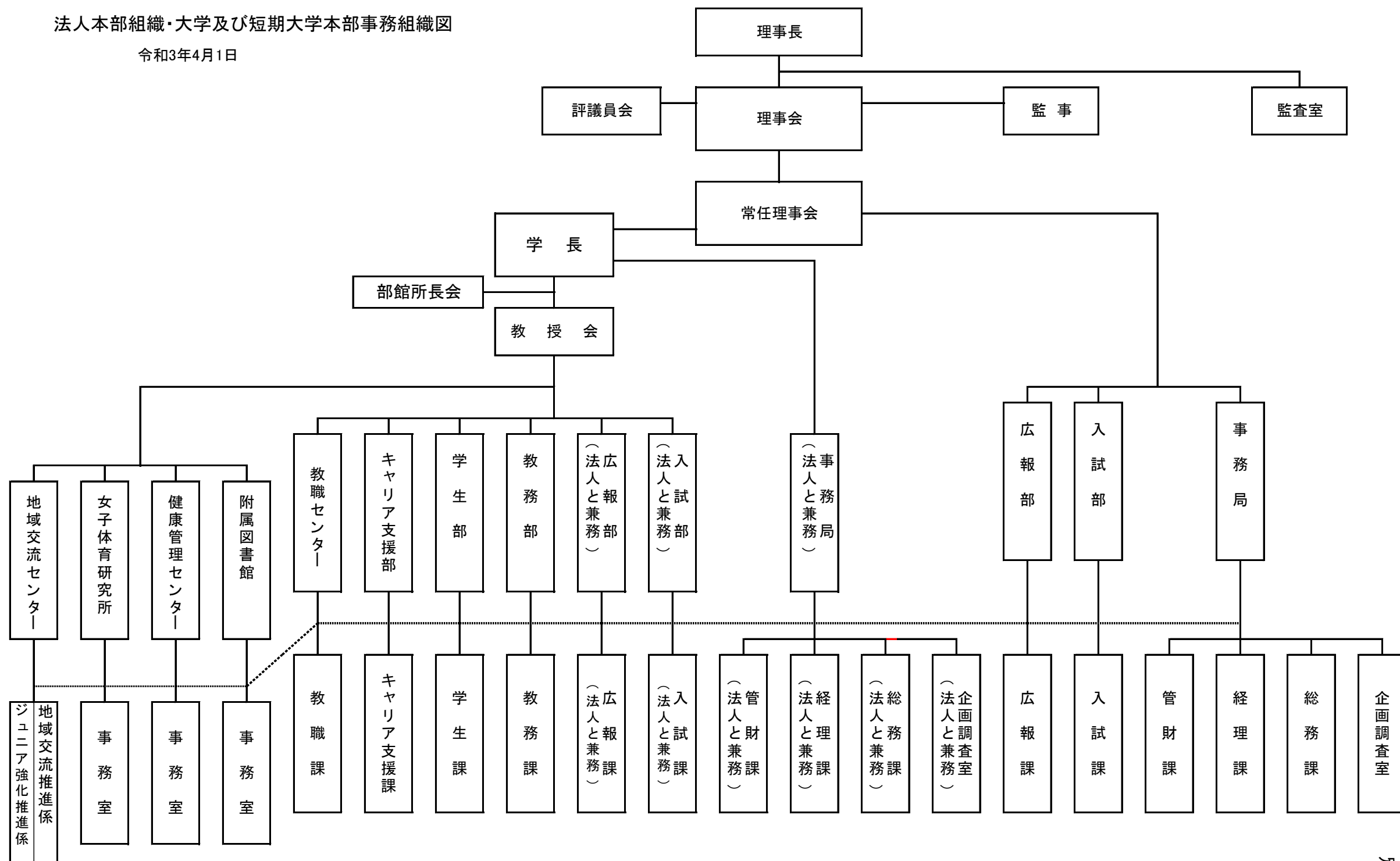
基本金組入前当年度収支差額	12,673	4,871	7,802
基本金組入額合計	△ 2,320,602	△ 2,410,247	89,645
当年度収支差額	△ 2,307,929	△ 2,405,376	97,447
前年度繰越収支差額	△ 1,417,514	987,862	△ 2,405,376
翌年度繰越収支差額	△ 3,725,443	△ 1,417,514	△ 2,307,929

(参考) (単位：千円)

事業活動収入計	2,579,216	2,487,658	91,558
事業活動支出計	2,566,543	2,482,787	83,756

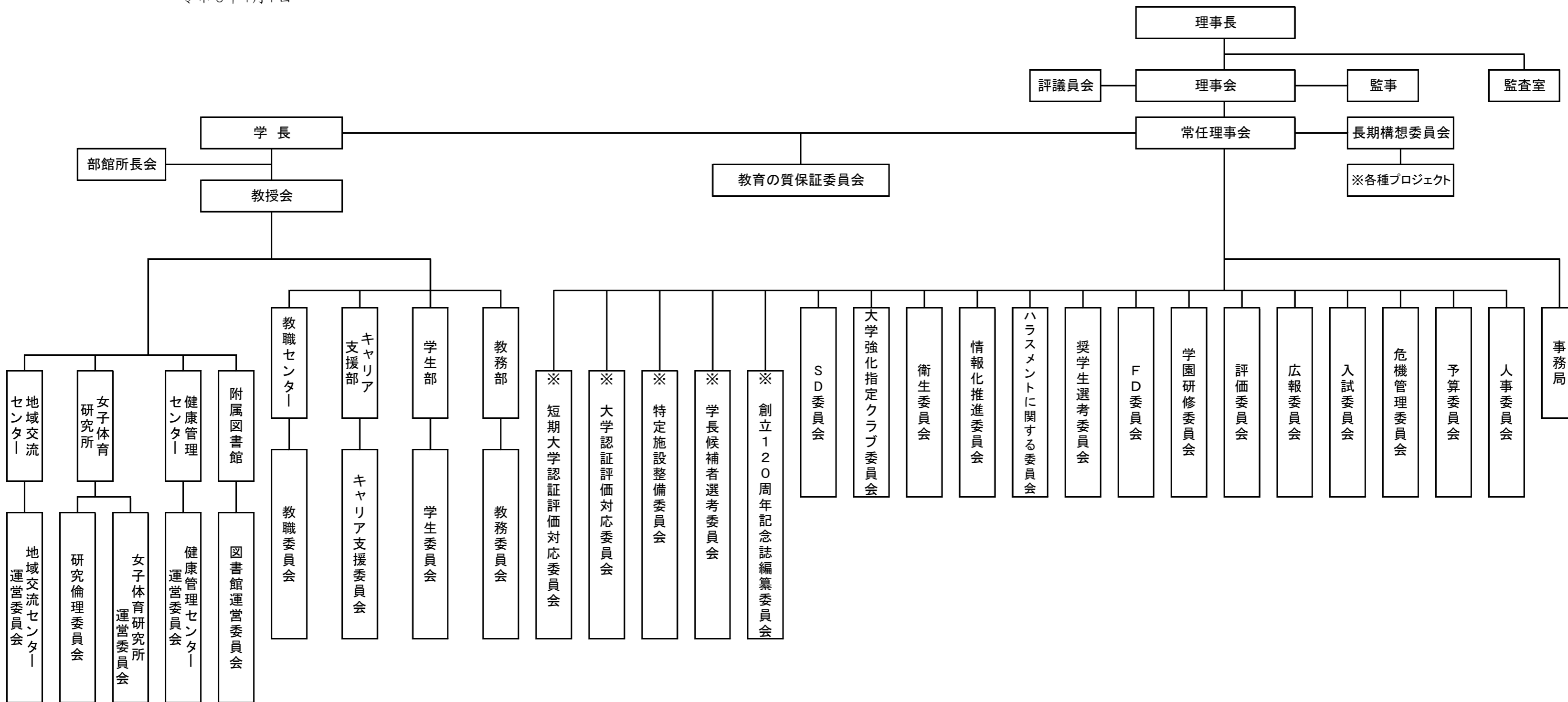
法人本部組織・大学及び短期大学本部事務組織図

令和3年4月1日



法人委員会及び教学委員会組織連関図

令和3年4月1日



※必要に応じて設置する委員会・プロジェクト

7						8						9														
日	曜日	行事予定	コ授マ業	大学	短大			日	曜日	行事予定	コ授マ業	大学	短大			日	曜日	行事予定	コ授マ業	大学	短大					
					保体	児教							保体	児教							保体	児教		保体	児教	
						幼小コース	幼保コース							幼小コース	幼保コース							幼小コース	幼保コース			
1	木		⑫				1	日	教員免許状更新講習						1	水	(補講日)									
2	金		⑬				2	月				介護等体験 社会福祉施設開始			2	木	(補講日)									
3	土		⑬				3	火							3	金	(補講日)									
4	日						4	水							4	土	(補講日)									
5	月		⑫				5	木							5	日	パラリンピック 閉会式									
6	火		⑫				6	金							6	月	前期試験									
7	水	定例教授会	⑫				7	土							7	火										
8	木		⑬				8	日	山の日 オリンピック 閉会式						8	水	定例教授会									
9	金		⑭				9	月	山の日 の振替 教員免許状更新 講習						9	木										
10	土		⑭				10	火							10	金										
11	日			海浜実習			11	水							11	土										
12	月		⑬				12	木							12	日	オープンキャン パス4回目									
13	火		⑬				13	金							13	月	学力保障期間 教師力養成 講座(観察実習)		大2 集中		保育所 施設実習					
14	水	教員免許状一括申請 希望者ガイダンス(大 4)	⑬				14	土							14	火	(前期成績締切)									
15	木		⑭		教員免許状一括申請希望 者ガイダンス (保2, 児2)		15	日							15	水										
16	金	(補講日)					16	月							16	木			大2 集中							
17	土	(補講日)					17	火		キャンプ実習					17	金										
18	日	オープンキャン パス3回目					18	水							18	土										
19	月		⑭				19	木							19	日										
20	火		⑭				20	金							20	月	敬老の日									
21	水		⑭				21	土							21	火	追再試験									
22	木	海の日		夏季休業開始			22	日							22	水										
23	金	オリンピック 開会式 スポーツの日					23	月							23	木	秋分の日			大2 集中						
24	土						24	火	パラリンピック 開会式						24	金			インターンシップ 授業(報告会) 大学2・3・保1							
25	日						25	水							25	土	総合型選抜 I期A日程									
26	月						26	木							26	日										
27	火						27	金							27	月	追再試験(幼保)					追再試 2年				
28	水						28	土							28	火	後期オリエン テーション					追再試 2年				
29	木						29	日				野外活動演習			29	水										
30	金						30	月							30	木										
31	土						31	火		夏季休業終了					31											

10						11						12											
日	曜日	大短共通	コ授マ業	大学	短大			日	曜日	行事予定	コ授マ業	大学	短大			日	曜日	行事予定	コ授マ業	大学	短大		
					保体	児教							保体	児教							保体	児教	
						幼小コース	幼保コース							幼小コース	幼保コース							幼小コース	幼保コース
1	金	授業ガイダンス 履修確認 ・修正期間	①					1	月		⑤					1	水	定例教授会	⑧		就職対策講座(業界研究) 大3・短1		
2	土		①						2	火		⑤					2	木		⑨			
3	日								3	水	文化の日						3	金		⑨			
4	月			①					4	木			⑤				4	土		⑧			
5	火			①					5	金			⑥				5	日					
6	水		定例教授会	①					6	土			④				6	月		⑩			
7	木			①					7	日	オープンキャンパス5回目						7	火		⑨			
8	金		②					8	月			⑥				8	水		⑨		就職活動学生報告会 大学3・短1		
9	土		②					9	火			⑥				9	木		⑩				
10	日							10	水	定例教授会	⑤	就職対策講座(業界研究) 大3・短1			10	金		⑩					
11	月		②					11	木			⑥				11	土		⑨				
12	火		②					12	金			⑦				12	日						
13	水		②	就職活動学生報告会 就職対策講座(基礎)① 大3・短1				13	土			⑤				13	月		⑪				
14	木		②					14	日							14	火		⑩				
15	金		③					15	月			⑦				15	水	卒業研究発表会 午後授業なし	⑩	卒業研究発表会			
16	土	総合型選抜 I期B日程 編入学選抜I期		授業なし				16	火			⑦				16	木		⑪				
17	日							17	水			⑥	就職対策講座(基礎)② 大3・短1			17	金		⑪				
18	月		③					18	木			⑦				18	土		⑩				
19	火		③					19	金	学校推薦型選抜	授業なし			19	日	総合型選抜II期							
20	水	臨時教授会	③	就職対策講座(業界研究) 大3・短1 教員免許状一括申請 希望者ガイダンス(大4)				20	土			⑥				20	月		⑫				
21	木		③					21	日							21	火		⑪				
22	金		④					22	月			⑧				22	水	臨時教授会 卒業研究提出締切	⑪				
23	土		③					23	火	勤労感謝の日						23	木		⑫				
24	日							24	水	臨時教授会	⑦	就職対策講座(基礎)③ 大3・短1			24	金		⑫					
25	月		④					25	木			⑧				25	土		⑪				
26	火	履修取消期間	④					26	金			⑧				26	日						
27	水		④	ゼミ・専攻コースガイダンス(大2・編入) 就職対策講座(業界研究) 大3・短1 教員免許状一括申請 希望者ガイダンス(保2、児2)				27	土			⑦				27	月	冬季休業開始					
28	木		④					28	日							28	火						
29	金	藤園祭準備 (午後授業なし)	⑤					29	月			⑨				29	水						
30	土	藤園祭		授業なし				30	火			⑧				30	木						
31	日	藤園祭						31								31	金						

